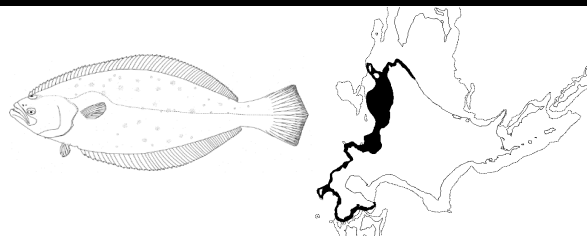


19.ヒラメ

主な漁業と漁期
刺し網、へらびき釣り、
底建網：5～7月、10～12月



日本海～
津軽海峡海域

生態

◆分布・回遊

宗谷管内のオホーツク海から道西日本海、津軽海峡を経て胆振・日高管内に分布し、主に日本海と津軽海峡で漁獲されます。水温が上昇する春季に浅海域に、秋季には沖合に移動します。また、9月までは北方向に、11～12月は南方向に移動する個体が多い特徴があります。

◆産卵期・産卵場

◎産卵期は6～8月です。

◎産卵場は水深20～50mに形成されます。

◆成長・成熟

(8月時点)

	全長(cm)		体重(g)	
	オス	メス	オス	メス
1歳	21	22	71	165
2歳	33	36	316	779
3歳	40	46	586	1,688
4歳	44	53	794	2,667
5歳	47	58	933	3,572
6歳	48	62	1,019	4,337
7歳		65		4,952
8歳		67		5,430
9歳		68		5,792

*)全長・体重：1996～2001年の漁獲物、および調査船の標本より

◎成熟年齢・全長

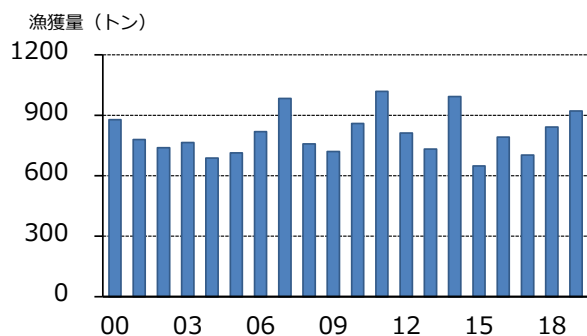
- ・オス：2歳から成熟する個体がみられ、全長29cm以上で半数以上が成熟します。
- ・メス：2歳から成熟する個体がみられ、全長41cm以上で半数以上が成熟します。

資源評価

[評価年] 8月～翌7月

[資源水準の指標] 資源重量

本海域の漁獲量は、500～1000トンで概ね安定して推移しています。2019年度の漁獲量は921トンで前年より増加しました。2016年度以降の加入量及び資源量は増加傾向にあり、2019年度の資源水準は高水準、翌年にかけての動向は横ばいと判断されました。現状の漁業形態や漁獲圧の下で、おおむね資源は持続的に利用されていると考えられます。



2019年度の水準 高水準

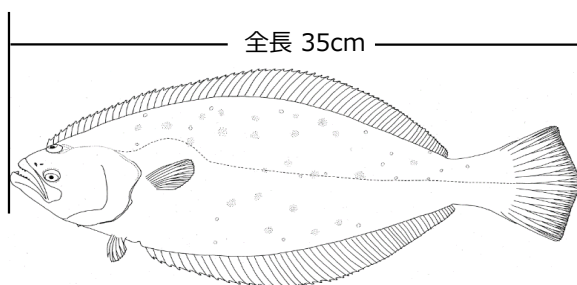
2020年度の動向 横ばい

※道総研が受託している国の資源評価調査のデータも利用して評価しています。

資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

- 資源管理協定(2019年3月更新)
関係漁業者間で全長35cm未満の未成魚保護を目的とする海中還元の措置を定めています。
- その他
漁業権行使規則等で操業期間、漁具の制限等を定めています。



☆資源の有効利用のため、現状の取り組みの継続が必要です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係
北海道立総合研究機構 中央水産試験場資源管理部

電話 011-204-5477
電話 0135-23-8707